

みんなで力を合わせて、最高のパフォーマンスを見せる!

① 運動会の華「ショータイム」と「デコ」。「デコ」は木材や段ボール、新聞などで作り上げる巨大なオブジェで、材料を工夫して本物そっくりに見せたり、動くようにしたりと、各ブロックで工夫を凝らす。



①

② 「ショータイム」は、ストーリー性あり、圧巻のダンスありと目が離せない。選曲、振りつけ、衣装すべてを生徒が考え、3週間の練習で息の合ったパフォーマンスを見せる。見せ場は最後に全員で踊るシーンだ。



③

③ ④ 競技の配点は高く、優勝のためには負けられない。大小の玉を取り合う「もぎ玉」や、2人3脚に始まり最後は6人7脚になる「らせん」などは、チームワークを要するため、出場メンバーをよく考えて決め、練習も念入りを行う。

④

ハートを
こがせ!

Vol.11

静岡県立浜松北高校
運動会

すべての情熱をかけて
生徒全員でつくり上げる、
汗と涙の結晶の運動会

組織的な運営が みんなが楽しめる 運動会へと 盛り上げる

静岡県立浜松北高校の運動会は、同校最大の行事だ。1〜3年生の各1クラスで1つのブロックを組み、1〜3年生で計10ブロックの対抗戦となる。特徴は、リレーや綱引きなどの競技のほかに、60〜80人で10分間のパフォーマンスをする「ショータイム(S.T)」と、横7.2×高さ4.5メートルの巨大なオブジェ「デコ」だ。各ブロックとも工夫を凝らし、独創性や完成度を競う。夏休み明けの練習開始から本番までの約3週間、生徒たちは、毎日放課後の夜遅くまで、準備と練習に明け暮れる。特に3年生は、本格的な受験勉強態勢に入る前の最後の行事として、優勝を目指して全力を注ぐ。

負けられない戦いが、そこにある。
悔いが残らないよう全力を尽くす

生徒のインタビューは P.30

⑤

⑤ 運動会運営委員は1・2年生の約100人の有志が務める。グラウンドのライン引き、競技への誘導、審判など、進行を滞らせることなくきばきと進める。⑥ 競技や応援に夢中になると、水を取るのも忘れてしまう。熱中症対策のため、各ブロックの救護チームは決められた時間に水を配って回る。

⑥

⑥ 片づけ終了後、ブロックごとに集まり、3年生のリーダーが仲間に感謝の言葉を述べ、1・2年生に運動会への熱い思いを託す。



⑧

⑦

⑦ すべての競技が終わり、表彰式後には、全校生徒が輪になって、校歌と生徒の歌を大合唱。

ハートを
こがせ!

Vol.11

静岡県立浜松北高校

運動会

目指すは優勝!

学年を超えて、

120人が一致団結

各自の得意分野を生かしながら
最高のものをつくり上げる

静岡県立浜松北高校の運動会は、1〜3年生の各1クラスで1つのブロックを組み、全10ブロックで競う。ブロックを率いる3年生の各クラスでは、ブロック長、統制長、競技長、ST(ショータイム)長、デコ長、衣装長、救護長の「七長」を決め、クラス全員がいずれかのチームに所属する。そして、夏休み中に各チームで話し合い、STの振りつけや衣装のデザイン、デコの図面などを完成させておき、夏休みが明けたら1・2年生を交えた練習にすぐ入れるようにしておく。9ブロックST長の仲間翔子さんは、常に手帳を持ち歩き、思いついた振りつけを書きとめ、チームに提案していった。「ダンス経験者でない人からもよいアイデアが出て、選曲も振りつけもチームで話し合って決めました。また、1度決まっても、前後の流れで考え

直すという作業を何度も繰り返しました」

9ブロックのデコは、羽が手で動くハチを制作した。デコ長の石津日向子さんが「今までになり動くデコにしたい」と提案したところ、物理が得意な生徒から滑車を用いて羽を動かす案が出た。「9ブロックのよさは、各自の得意分野が違うところだ。理系の人が動く仕組みを考えて、美術が作業に集中できるように、材料の準備や企画書作りなど、事務作業を引き受けました」(石津さん)

そして、総勢120人をまとめるのがブロック長だ。9ブロック長の加藤諒さんは、1・2年生が楽しめるように頻繁に声をかけ、本番に向けて士気を上げるとともに、全体を見渡すよう心がけた。「夜7時に練習が終わると、七長が集まって課題を共有し、例えば、デコの制作が遅れていれば人手を増やし、気になる後輩がいれば面倒を見る3年生を充てるというようにすぐに対応しました」

教師の
思い

リーダーとフォロワー、
それぞれの経験が
生徒を大きく成長させる



静岡県立浜松北高校
澤木和弘

さわき・かずひろ

教職歴32年。同校に赴任して4年目。
生徒指導部生徒会担当。3学年担任。

勝ちへのこだわりが
チームワークにつながる

3年生は、高校3年間の総決算として運動会に全力投球します。1・2年生の時には部活動の試合などで参加できなかった生徒も、部活動の引退後ですから積極的にかかわりますし、先輩たちの姿に憧れ、3年生になったら「七長」としてチームを引っ張りたいと思っていた生徒も大勢います。

また、本校の生徒は競争意識が高く、学校祭でのクラス展示でも優勝を決めますし、合唱大会では全30クラスの順位を発表するほどです。そうした「勝ちたい」という思いが、それぞれの得意分野で力を発揮し、協働することにつながっていると感じます。その結果、特定の生徒が毎回リーダーを務めるのではなく、例えば、学校祭でのリー

全力でチームを率いたからこそ 勝っても負けても得られるものがある

各ブロックの表舞台を裏で支えるのが、運動会運営委員会だ。1・2年生の有志約100人が総務や競技などの係に分かれ、練習場所の割り振りや道具の貸し出し、当日の会場整備や出場者の誘導、審判など、運営のすべてを担う。今年も騎馬戦に代わる新競技が加わり、委員長の鈴木奏丞（かずすけ）さんは、その調整に奔走した。

「委員会でも新競技を何度も試行し、これなら盛り上がるというルールを設定しました。でも、本番は必ずしも成功とは言えない結果に終わりました。課題は申し送りし、来年、後輩たちに託します」



デコは模型やCGなどで完成予想図と図面を作成してから制作に入る。巨大なオブジェのため、安全面や構造面もしっかり考えて作られる。



運動会当日は快晴。優勝は10ブロック。9ブロックはデコ大衆賞2位、フェアプレー賞を獲得した。「みんなの意見を取り入れて、計画を立て、問題が起きても、妥協するところは妥協し、譲れないところは最善策を考える、そうした意志と実行力がついていたと思います」（石津さん）

「STでは賞が取れず、悔しかったけれど、最後に全校生徒が輪になって『生徒の歌』を歌った時、北高は1つなんだと思いました」（神間さん）

「運動会後、後輩から『9ブロックでよかったです』と言われ、自分の目標が達成できたと思えませんでした。チームをまとめるためには、やらせるのではなく、自分からやりたいと思ってもらえるようにすること、その大切さを学びました」（加藤さん）

加藤 諒 かとう・りょう

3年生。9ブロック長。漕艇部部長。「入試への影響を心配して七長になるのを後輩がためらわないよう、自らが現役合格に向けて力を尽くします」

神間翔子 かま・しょうこ

3年生。9ブロック・ST長。茶華道部。「一人には適材適所があり、得意なことでも貢献することの大切さを感じました」

石津日向子 いしづ・ひなこ

3年生。9ブロック・デコ長。英語ディベート部。「チームで協力して準備を進める経験を通して、話をしっかり聞き姿勢が身についたと思います」

鈴木奏丞 すずき・そうすけ

2年生。運動会運営委員長。軽音楽部。「来年はブロック長になり、今年以上に盛り上がる運動会にしたいと思っています」

ダーが合唱大会ではフォローに回るなど、生徒は指示する側と支援する側との両面の経験を積めるのです。

指導者の立場を経験できる 重要な教育活動の1つ

運動会を通して、3年生は上級生としての自覚が生まれ、大人になっていきます。120人もの人を率いる経験は、社会人になってもそうできないでしょう。地域や日本、そして世界のリーダー的存在となる人材を育むことを目標とする本校では、指導する側を経験できる運動会は重要な教育活動です。本校の建学の精神「自主独立」を具現化する行事だという共通理解を教師は持ち、見守ることに徹しています。そして、本格的な受験勉強態勢に入る切り替えの行事として、3年生にとことん打ち込ませるのです。

静岡県立浜松北高校

◎建学の精神「自主独立」を基盤とし、広く世界的視野に立つて人類の発展に寄与できる人間の育成を目指す。部活動も盛んで、洋弓部、漕艇部、百人一首部、英語ディベート部などが全国的に活躍している。

◎設立 1894（明治27）年

◎形態 全日制・定時制／普通科・国際科／共学

◎生徒数 1学年約400人

◎2016年度入試合格実績（現役のみ）

国立大は、北海道大、東京大、静岡大、浜松医科大学、名古屋大、京都大、大阪大などに171人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大、同志社大などに延べ548人が合格。

◎URL <http://www.edu.pref.shizuoka.jp/hamamatsukita-h1/home.nsf/IndexFormView?OpenView>